

“超”を目指す軸受技術研究会（第3種，主査 森 淳暢）：本研究会は，気体軸受研究会（第3種，主査 矢部 寛）を発展的に受け継ぎ，本年度新たに発足された会であり，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽に何となく参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数51名，平均出席者数は30名程度で，関西大学を開催場所とし，年4回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第1回研究会（平成13年5月19日 於：関西大学） 動圧軸受の現状（松下電産 松岡 薫），玉軸受の回転精度の理論と実際（日本精工 野口昭治），高速主軸用磁気軸受（三菱電機 堀内 弥）

第2回研究会（平成13年7月28日 於：関西大学） 蒸気タービン用超大径軸受の開発（和歌山高専 谷口 邁），油潤滑スパイラル溝ジャーナル軸受の作動特性に関する基礎的研究（龍谷大 平山 朋子），能動型可変絞り油静圧スラスト軸受に関する研究（東京理科大 吉本成香）

第3回研究会（平成13年9月29日 於：関西大学） 超伝導磁気軸受の回転損失（光洋精工 高畑 良一），浸漬型マルチパッドジャーナル軸受内潤滑流体の流れについて（舞鶴高専 野間正泰），World Tribology Congress 2001 (in Vienna)学会報告（舞鶴高専 野間正泰，龍谷大 平山 朋子）

第4回研究会（平成13年12月1日 於：関西大学） 磁性流体軸受スピンドルの評価法（和歌山大 三輪昌史），静圧気体軸受のすきま内流れの可視化（福井工大 小沢康美），動圧気体フォイル軸受の基礎特性解析（大阪電通大 矢部 寛）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3回の研究会の開催を予定している．

[トライボロジスト，Vol. 47, No.6 (2002)]